

平成25年度「全国学力・学習状況調査」の
結果について

京都市教育委員会

目 次

1	調査結果の概要	1
2	教科に関する調査の結果について	
	(1) 小学校調査	2
	(2) 中学校調査	4
3	児童生徒質問紙調査に関する結果について	6
	(1) 学習時間・家庭学習	7
	(2) 読書	11
	(3) 自尊感情・規範意識	13
	(4) ゲーム・携帯電話(スマートフォン)利用	16
4	京都市の学力向上の取組	19
5	保護者・地域のみなさまへ	21

平成25年4月24日に全国一斉に実施された「全国学力・学習状況調査」(以下「全国調査」といいます。)について、京都市の状況を公表いたします。

京都市の小学校は、国語A・B，算数A・Bともに全国平均を上回り，中学校においても，国語B，数学A，数学Bにおいて全国平均を上回る結果となっています。

全国調査が始まった平成19年度以降，京都市の調査結果(全国の平均正答率を100としたときの京都市の平均正答率の割合を示す指数)を経年でみると，小学校・中学校ともに指数が着実に伸びています。

1 調査の概要

(1) 実施日 平成25年4月24日(水)

(2) 対象学年 小学校第6学年，中学校第3学年

(3) 実施教科等

教科に関する調査

国語，算数・数学

「主として知識に関する問題(A問題)」と「主として活用に関する問題(B問題)」

児童生徒質問紙調査

学校質問紙調査

(4) 実施学校数・参加人数<公立学校>(4月24日実施分)(総合支援学校含む)

	実施学校数	参加人数
小学校	169 / 169 校	10,727 人
中学校	71 / 74 校	9,331 人

*京都市立中学校の未実施校3校のうち，2校は修学旅行のため後日実施。

1校は対象生徒なし。

全国調査は，子どもたちの学習状況をより良くするためのものです。調査結果が学力の全てを示しているわけではありませんし，順位を競争するためのものでもありません。学力は，学校と家庭・地域での地道な取組を重ねていくことで向上するもので，日々の生活習慣・学習習慣を身に付けることが基本となります。

京都市では，「一人一人の子どもを徹底的に大切にすること」という理念のもと，市民ぐるみ・地域ぐるみの開かれた学校づくりを推進する中で，子どもたちの学習習慣の定着や学習意欲の向上を支援していきます。

2 教科に関する調査の結果について

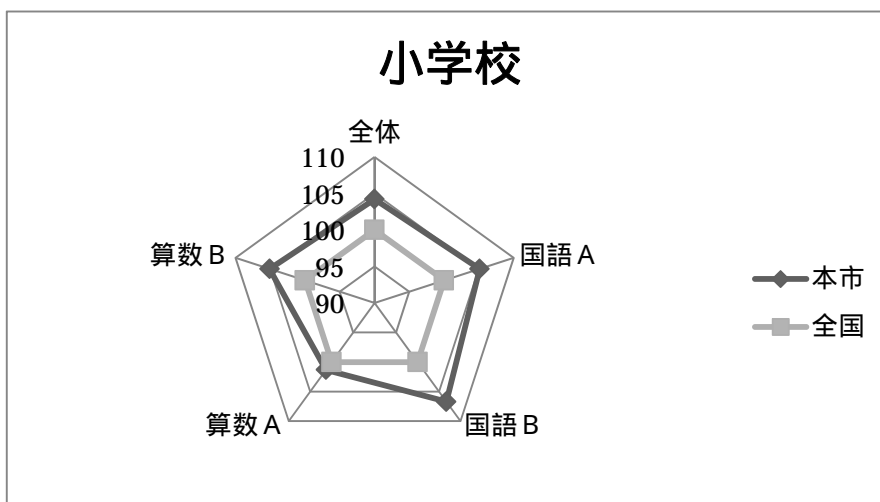
(1) 小学校調査(6年生) <公立学校>

	国語 A (知識)		国語 B (活用)		算数 A (知識)		算数 B (活用)		合計	
	平均正答率	指数	平均正答率	指数	平均正答率	指数	平均正答率	指数	平均正答率	指数
全国	62.7	100	49.4	100	77.2	100	58.4	100	61.9	100
京都府	65.8	104.9	52.1	105.5	79.2	102.6	61.1	104.6	64.6	104.2
本市	65.9	105.1	52.7	106.7	78.2	101.3	61.4	105.1	64.6	104.2

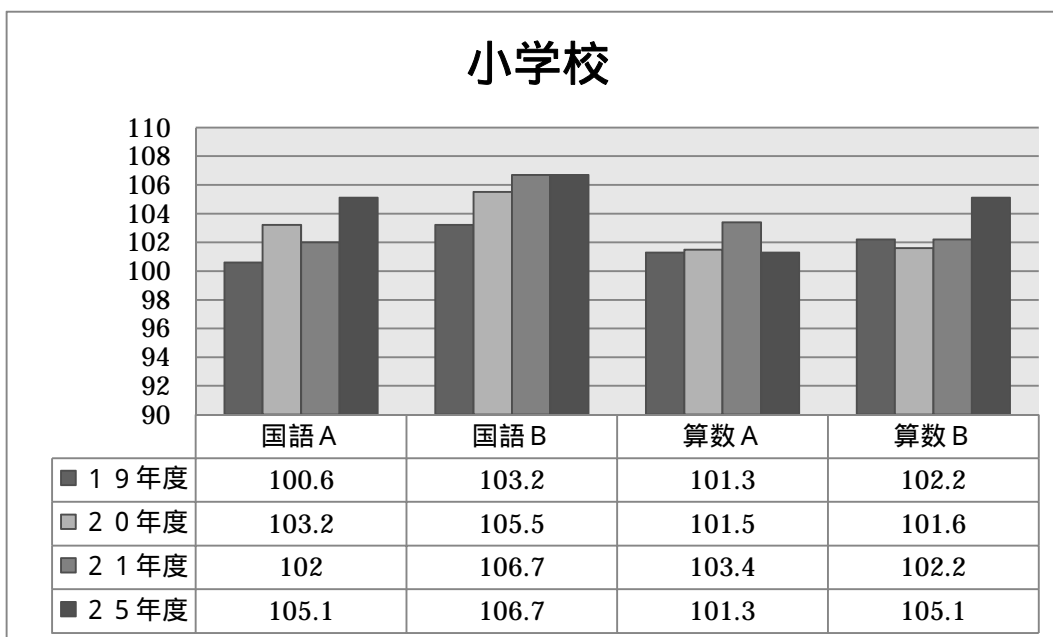
* A 調査...主として知識に関する調査, B 調査...主として活用に関する調査(以下同じ)

* 指数 ...全国の平均正答率を 100 とした場合の京都市(京都府)の平均正答率の割合(以下同じ)

各教科別指数(全国=100)



本市の経年変化(指数)



* 平成 22 年度, 24 年度は抽出調査のため除く, 平成 23 年度は東日本大震災のため中止

分析・問題例

小学校の平均正答率は、全国平均をそれぞれ1.0～3.3ポイント上回っています。特に、活用に関する問題が出題された国語B，算数Bにおいては、全国平均を3ポイント程度上回り、良好な結果となりました。

また、無解答率も国語・算数ともに全国平均と比べて低く、特に算数科の記述式問題での正答率も高いのが特徴です。

< 国語 >

平均正答率は、全国平均を国語Aで3.2ポイント、国語Bで3.3ポイント上回っています。指数で見ると、平成21年度と比べ、特に国語Aが大きく伸びています。設問ごとの正答率でも、A問題の漢字の読み問題（1問）を除き全国平均を上回りました。しかし、無解答率は全国平均より低いものの、基礎的・基本的な知識・技能の定着状況が不十分などの課題も見受けられます。

全国平均を下回った問題

漢字の読み問題　めずらしい植物を 採集 する

正答率 57.6%（全国平均 64.9%）　無解答率 3.5%（全国平均 3.1%）

無解答率が高かった問題

漢字の書き問題　委員会を もう ける

正答率 58.0%（全国平均 53.5%）　無解答率 23.3%（全国平均 27.4%）

< 算数 >

平均正答率は、全国平均を算数Aで1.0ポイント、算数Bで3.0ポイント上回っています。指数で見ると、平成21年度と比べ、特に算数Bが大きく伸びています。設問ごとの正答率を見ると、特にB問題は全ての設問で全国平均を上回りました。しかし、図や表を観察して、問題の解決に必要な情報を選択することや整数・小数・分数の計算（A問題）に課題が見受けられます。A問題のうち、全国平均を下回る問題は19問中6問で、そのうち3問が整数・小数・分数の基礎的・基本的な加減の計算です。

全国平均と比べて正答率が下回った問題

小数第二位までの加法「(小数) + (小数)」の計算問題　0.75 + 0.9

正答率 65.4%（全国平均 71.3%）　無解答率 0.3%（全国平均 0.3%）

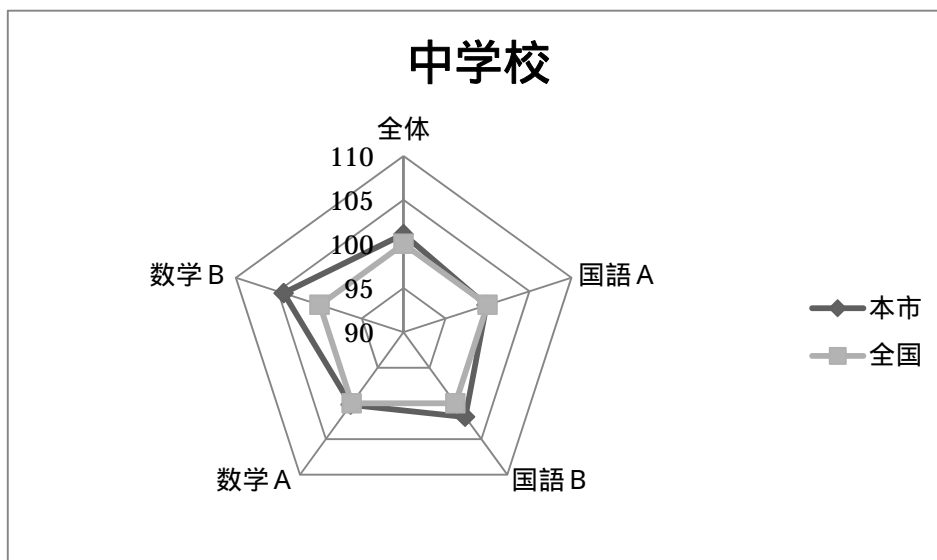
円柱について、底面の円周の長さや展開図の側面の辺の長さなどが対応していることを理解しているかどうかをみる問題

正答率 65.6%（全国平均 66.3%）　無解答率 4.8%（全国平均 5.7%）

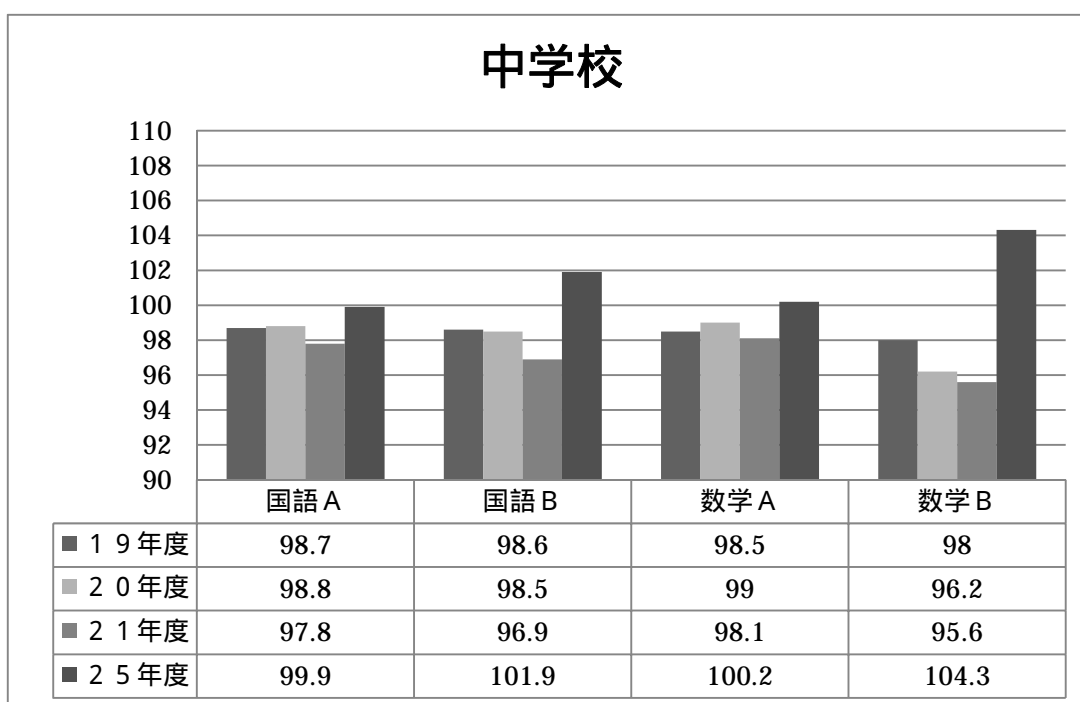
(2) 中学校調査(3年生) <公立学校>

	国語 A (知識)		国語 B (活用)		数学 A (知識)		数学 B (活用)		合計	
	平均正答率	指数	平均正答率	指数	平均正答率	指数	平均正答率	指数	平均正答率	指数
全国	76.4	100	67.4	100	63.7	100	41.5	100	62.3	100
京都府	76.3	99.9	68.2	101.2	64.2	100.8	42.9	103.4	62.9	101.0
本市	76.3	99.9	68.7	101.9	63.8	100.2	43.3	104.3	63.0	101.2

指数(全国=100)



本市の経年変化(指数)



* 平成 22 年度, 24 年度は抽出調査のため除く, 平成 23 年度は東日本大震災のため中止

分析・問題例

中学校における平均正答率は、国語A，数学Aで概ね全国平均並み，国語B，数学Bでは全国平均を上回り，良好な結果となりました。

また，無解答率は，小学校と同様，全般的に国語・数学ともに全国平均と比べて低く，平成21年度と比べても大きく改善しています。生徒が問題にきちんと向き合い，どの問題に対しても最後まであきらめないで取り組もうとする学習姿勢が広く育まれつつあるといえます。

<国語>

平均正答率は，全国平均を国語Aは0.1ポイント下回り，国語Bは1.3ポイント上回りました。

指数で見ると，平成21年度と比べて，国語A・Bともに伸びています。

全国平均と比べて特に正答率の高かった問題

新聞と世論調査を基に，情報を整理したり，自分の考えを述べる問題

- (一) 正答率 62.7% (全国平均 61.0%) 無解答率 0.8% (全国平均 0.9%)
- (二) 正答率 72.8% (全国平均 70.2%) 無解答率 1.0% (全国平均 1.2%)
- (三) 正答率 68.1% (全国平均 64.6%) 無解答率 4.2% (全国平均 5.4%)

全国平均と比べて特に正答率が低かった問題

文の接続（逆接）に注意し，伝えたい事柄を明確にして書くことができるかどうかをみる問題

正答率 45.7% (全国平均 48.8%) 無解答率 4.9% (全国平均 6.0%)

<数学>

平均正答率は，全国平均を数学Aで0.1ポイント，数学Bで1.8ポイント上回りました。指数で見ても，平成21年度と比べて，数学A・Bともに伸びており，特に数学Bについては，その伸びが顕著です。

全国平均と比べて特に正答率の高かった問題

1辺にn個ずつ碁石を並べて正三角形の形をつくったときの碁石全部の個数を求める問題

- (1) 正答率 60.8% (全国平均 52.5%) 無解答率 6.0% (全国平均 7.0%)
- (2) 正答率 63.3% (全国平均 56.6%) 無解答率 1.5% (全国平均 2.1%)
- (3) 正答率 30.4% (全国平均 24.0%) 無解答率 31.3% (全国平均 43.2%)

全国平均と比べて特に正答率が低かった問題

度数分布図から指定の範囲のデータの数を求めることができるかどうかをみる問題

正答率 17.3% (全国平均 22.8%) 無解答率 20.7% (全国平均 25.1%)

「ある試行を多数回繰り返したとき、全体の試行回数に対するある事象の起こる回数の割合は、ある一定の値に近づく」ことを理解しているかをみる問題(確率の意味)

正答率 28.6% (全国平均 33.1%) 無解答率 1.9% (全国平均 2.7%)

3 児童生徒質問紙調査に関する結果について

教科に関する調査は、小中学校ともに、全国平均を上回る、あるいは平均並み等の良好な結果でした。各校における基礎・基本の学習の徹底、適切な評価に基づく指導方法の工夫・改善が進むと同時に、児童生徒の学校生活・社会生活での意識が変化し、学習に対する関心・意欲・態度が少しずつ向上していることも今回の結果に表れています。

「確かな学力」は、「豊かな心」「健やかな体」と密接に関連しており、それぞれが有機的に結びついて、はじめて子どもに「生きる力」を育成することができます。

ここでは、「学習時間・家庭学習」、「読書時間」、「自尊感情・規範意識」、「ゲーム・携帯電話の利用」など、児童生徒の生活習慣と学力調査結果との相関関係について特徴的なものを挙げています。

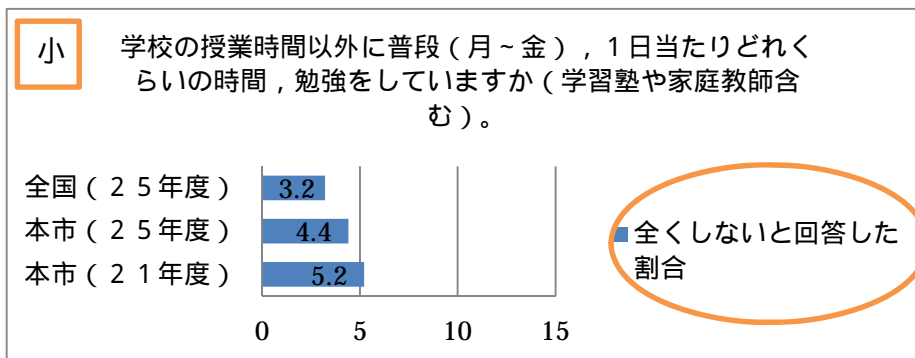
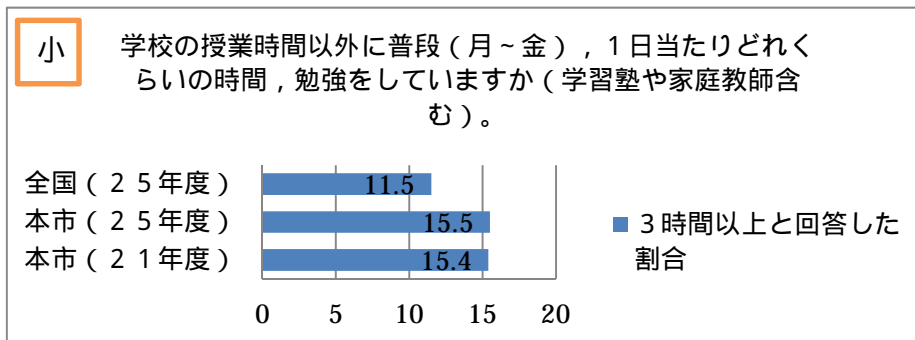
後述のように、確かな学力の定着・向上のためには、家庭学習をはじめとする自学自習の学習習慣の確立をはじめ、日々の生活において、子どもたちに「規範意識」や「自尊感情」を育成する取組などが大きく影響していることが、調査結果から十分に読み取れます。これらの取組を充実していくためには、家庭・地域・学校において、様々な活動を地道に継続していくことが重要です。

(1) 学習時間・家庭学習

小中学校ともに、授業以外で「1日3時間以上勉強する」児童生徒の割合が、全国平均と比べて上回っている一方で、「全くしない」と答えた児童生徒の割合は、平成21年度から減少していますが、全国平均よりは多くなっています。

全国的な傾向ですが、小中学校ともに、「宿題や家庭学習ができている児童生徒ほど、正答率が高い」「読書好きな児童生徒ほど、正答率が高い」傾向にあり、京都市でも、その傾向は顕著に表れています。

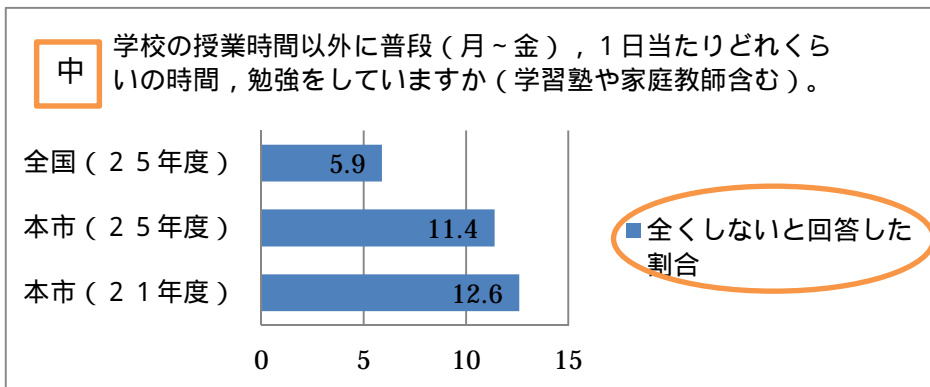
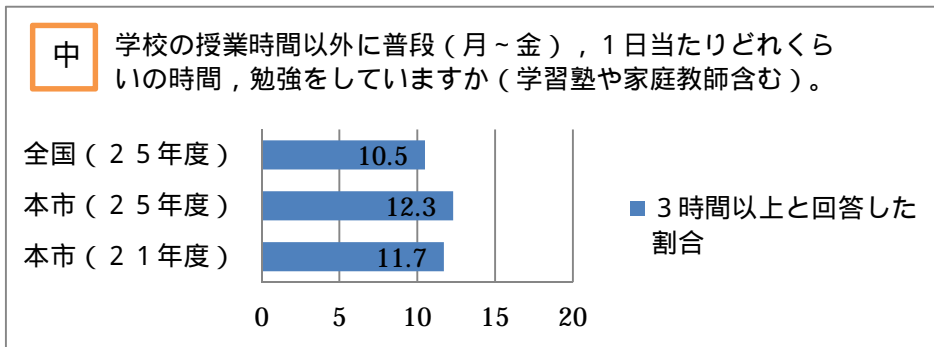
普段（月～金）の学習時間（塾含む）＜小学校＞



本市の児童・生徒質問紙の回答と、学力調査との相関関係（以降クロス集計と表記）

選択肢	児童数割合 (%)	平均正答率(%)			
		国語A	国語B	算数A	算数B
3時間以上	15.5	77.0	64.6	87.5	73.7
2時間以上, 3時間未満	15.5	68.9	56.3	81.2	63.9
1時間以上, 2時間未満	29.6	65.9	52.9	78.6	61.3
30分以上, 1時間未満	23.8	62.8	49.9	75.7	58.6
30分より少ない	11.0	58.6	43.7	70.9	53.0
全くしない	4.4	53.3	36.2	66.2	47.0

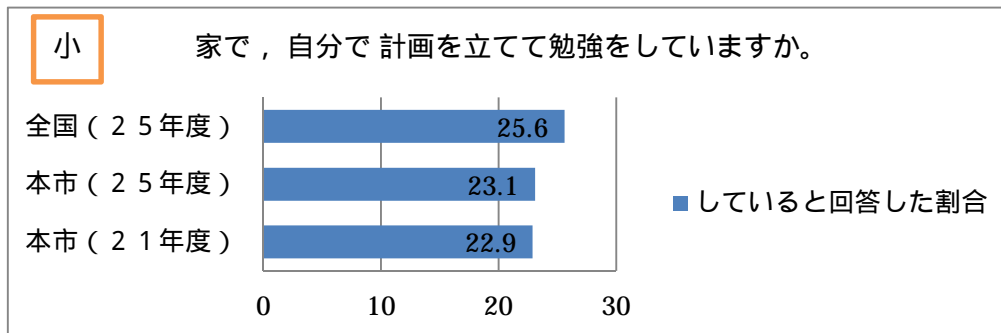
普段（月～金）の学習時間（塾含む）＜中学校＞



クロス集計

選択肢	生徒数割合 (%)	平均正答率(%)			
		国語A	国語B	数学A	数学B
3時間以上	12.3	80.2	73.2	71.6	51.4
2時間以上，3時間未満	24.0	78.0	70.5	68.0	46.7
1時間以上，2時間未満	27.4	77.4	70.5	66.1	44.8
30分以上，1時間未満	13.8	76.6	69.4	62.7	42.9
30分より少ない	11.0	73.9	65.8	57.1	37.8
全くしない	11.4	68.1	57.9	49.6	30.5

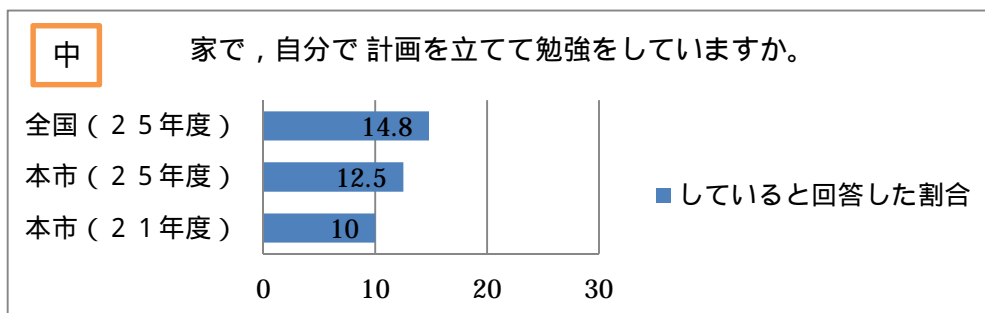
学習計画<小学校>



クロス集計

選択肢	児童数割合 (%)	平均正答率 (%)			
		国語 A	国語 B	算数 A	算数 B
している	23.1	72.4	59.5	83.5	68.0
どちらかといえばしている	33.3	68.1	56.0	80.6	64.2
あまりしていない	31.4	62.8	49.1	75.4	58.0
全くしていない	12.2	56.3	40.4	69.7	50.3

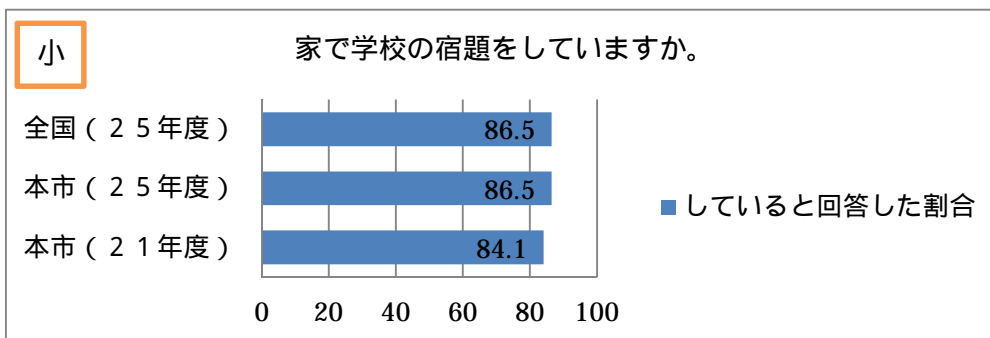
学習計画<中学校>



クロス集計

選択肢	生徒数割合 (%)	平均正答率 (%)			
		国語 A	国語 B	数学 A	数学 B
している	12.5	80.0	73.7	70.0	50.1
どちらかといえばしている	27.3	79.0	72.8	68.0	48.0
あまりしていない	36.2	76.4	68.9	63.6	42.4
全くしていない	23.8	71.4	61.2	56.4	36.1

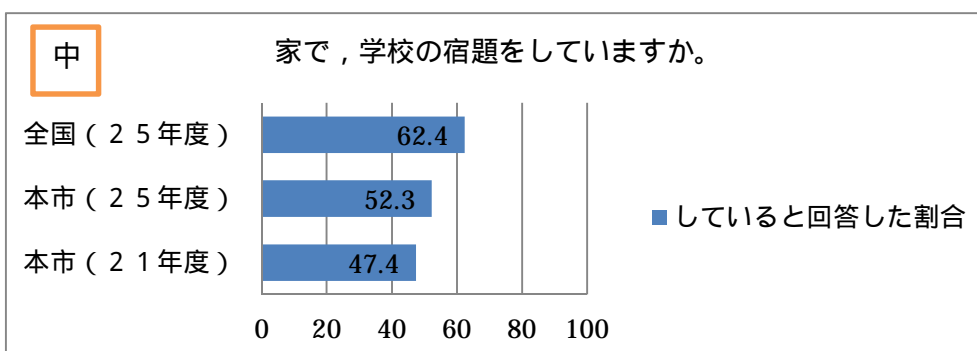
宿題<小学校>



クロス集計

選択肢	児童数割合 (%)	平均正答率 (%)			
		国語 A	国語 B	算数 A	算数 B
している	86.5	67.5	55.0	79.7	63.4
どちらかといえばしている	10.0	58.0	40.8	70.6	50.6
あまりしていない	2.6	51.8	33.6	65.5	43.9
全くしていない	0.7	45.5	26.7	58.8	37.5

宿題<中学校>



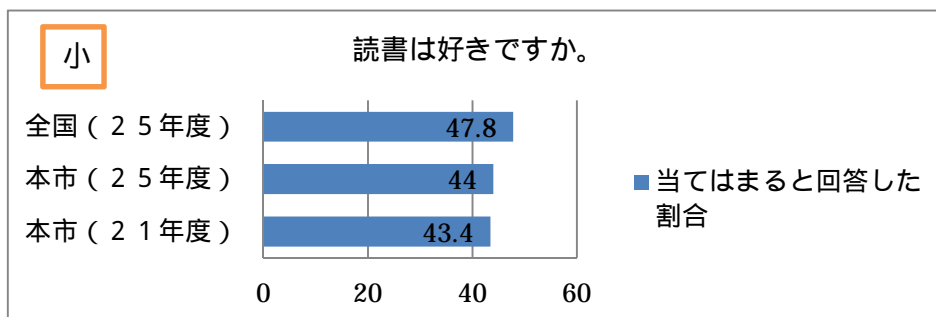
クロス集計

選択肢	生徒数割合 (%)	平均正答率 (%)			
		国語 A	国語 B	数学 A	数学 B
している	52.3	79.2	72.7	67.8	47.5
どちらかといえばしている	29.5	75.6	67.6	62.3	41.5
あまりしていない	12.1	71.4	61.6	57.7	36.9
全くしていない	5.8	65.1	53.7	49.5	30.0

(2) 読書

「読書好き」の児童生徒は、平成21年度と比べて増加しており、学力との相関関係もみられます。また、平日に読書を全くしないという児童生徒の平均正答率は、読書をする児童生徒のそれと比べて低いという結果となりました。一方で、読書時間が長ければ長いほど、平均正答率が高くなるという相関関係はみられませんでした。

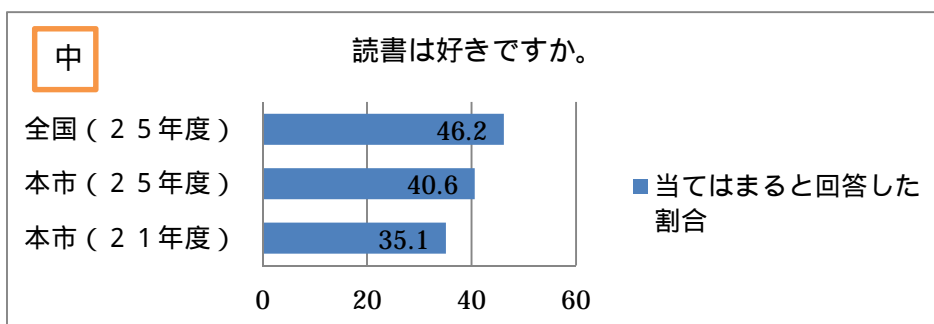
読書は好きですか<小学校>



クロス集計

選択肢	児童数割合 (%)	平均正答率 (%)			
		国語 A	国語 B	算数 A	算数 B
当てはまる	44.0	70.7	59.2	80.9	66.2
どちらかといえば当てはまる	24.6	65.2	51.7	77.7	60.3
どちらかといえば当てはまらない	17.1	62.0	47.9	76.8	58.3
当てはまらない	14.0	57.5	40.5	73.0	52.4

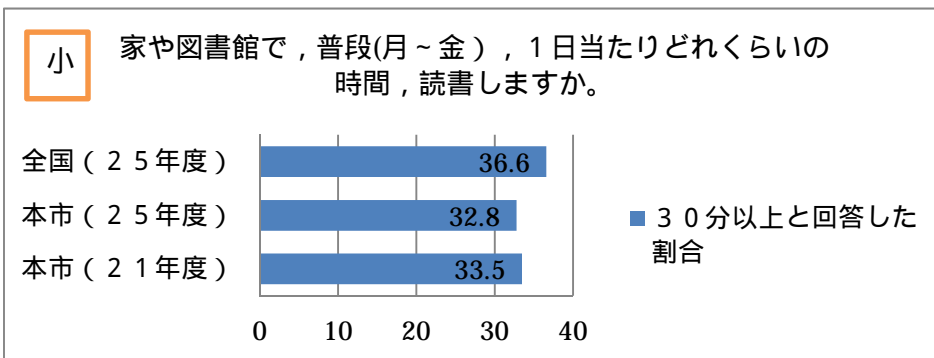
読書は好きですか<中学校>



クロス集計

選択肢	生徒数割合 (%)	平均正答率 (%)			
		国語 A	国語 B	数学 A	数学 B
当てはまる	40.6	81.1	75.2	68.1	48.6
どちらかといえば当てはまる	24.8	76.8	69.6	64.4	43.7
どちらかといえば当てはまらない	17.7	73.4	64.8	61.3	39.6
当てはまらない	16.3	67.5	56.1	55.9	34.4

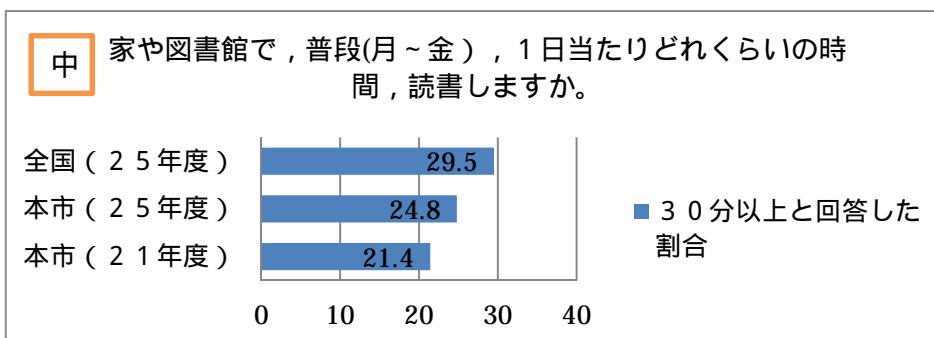
普段（月～金）の読書時間（教科書や参考書，漫画や雑誌を除く）＜小学校＞



クロス集計

選択肢	児童数割合 (%)	平均正答率 (%)			
		国語 A	国語 B	算数 A	算数 B
2 時間以上	5.3	69.1	57.7	78.5	63.9
1 時間以上，2 時間未満	9.2	70.8	59.9	80.7	65.8
30 分以上，1 時間未満	18.3	70.4	58.7	81.2	66.2
10 分以上，30 分未満	27.1	67.7	55.3	80.3	63.6
10 分より少ない	17.3	63.7	49.0	76.7	58.8
全くしない	22.5	59.5	44.1	73.7	54.8

普段（月～金）の読書時間（教科書や参考書，漫画や雑誌を除く）＜中学校＞



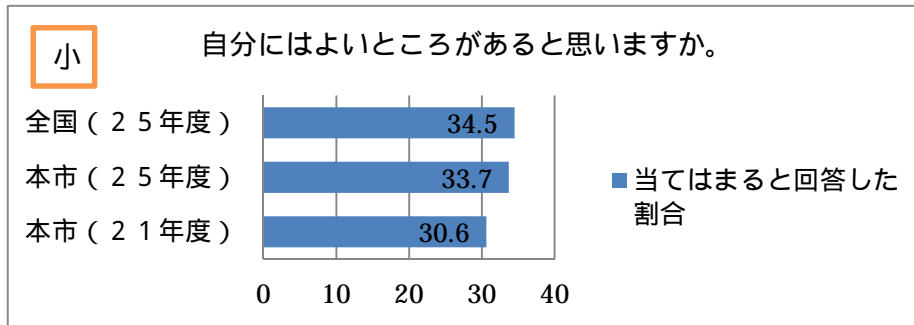
クロス集計

選択肢	生徒数割合 (%)	平均正答率 (%)			
		国語 A	国語 B	数学 A	数学 B
2 時間以上	5.3	77.7	70.5	62.3	41.8
1 時間以上，2 時間未満	7.8	80.3	73.2	65.9	46.0
30 分以上，1 時間未満	11.7	79.8	74.5	67.5	48.0
10 分以上，30 分未満	21.0	80.8	74.7	69.7	50.2
10 分より少ない	15.0	76.2	69.4	64.7	44.1
全くしない	38.9	72.0	62.4	59.1	37.8

(3) 自尊感情・規範意識

「学校のきまりを守っている」「自分にはよいところがあると思う」児童生徒の割合は、平成21年度と比べて増加しています。規範意識・自尊感情が高い児童生徒ほど正答率が高いという傾向を示しており、子どもたちの生活習慣・学習環境と学力とは、大きな相関関係があることがわかります。

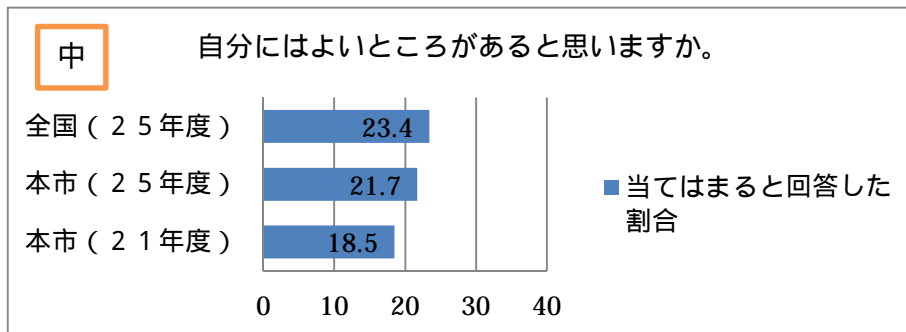
自分のよいところ<小学校>



クロス集計

選択肢	児童数割合 (%)	平均正答率 (%)			
		国語 A	国語 B	数学 A	数学 B
当てはまる	33.7	68.3	54.9	80.1	63.7
どちらかといえば当てはまる	42.4	66.7	54.3	79.3	62.7
どちらかといえば当てはまらない	17.3	62.2	48.7	74.7	57.1
当てはまらない	6.5	59.7	42.9	71.5	52.9

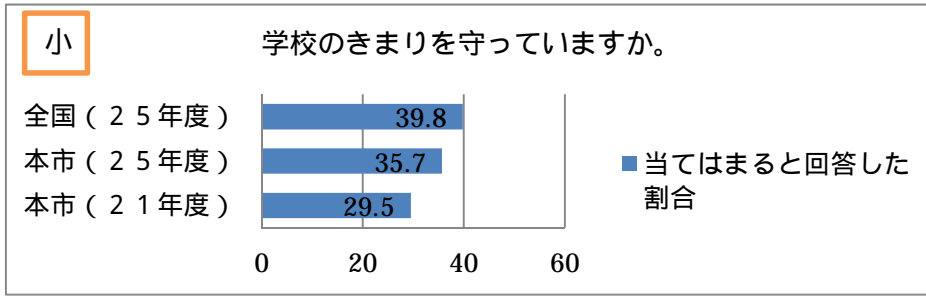
自分のよいところ<中学校>



クロス集計

選択肢	生徒数割合 (%)	平均正答率 (%)			
		国語 A	国語 B	数学 A	数学 B
当てはまる	21.7	76.2	68.3	64.3	43.6
どちらかといえば当てはまる	44.1	77.7	70.5	65.9	45.5
どちらかといえば当てはまらない	24.6	75.6	67.6	62.2	42.0
当てはまらない	9.3	72.2	64.2	57.6	36.9

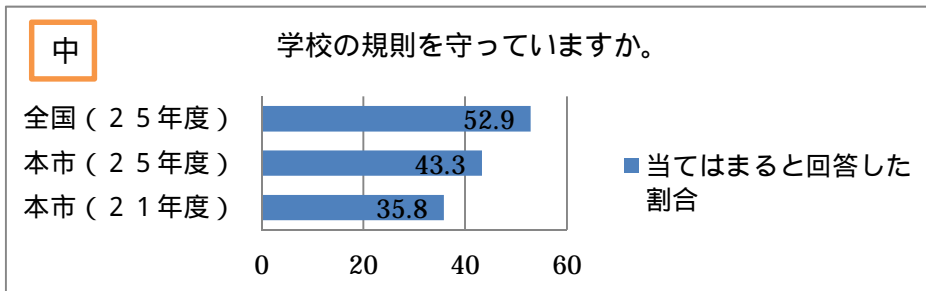
学校のきまり < 小学校 >



クロス集計

選択肢	児童数割合 (%)	平均正答率 (%)			
		国語 A	国語 B	算数 A	算数 B
当てはまる	35.7	67.1	55.1	79.2	63.1
どちらかといえば当てはまる	52.7	66.7	53.6	79.2	62.3
どちらかといえば当てはまらない	10.1	59.7	42.8	72.1	52.9
当てはまらない	1.4	55.0	35.6	67.5	46.1

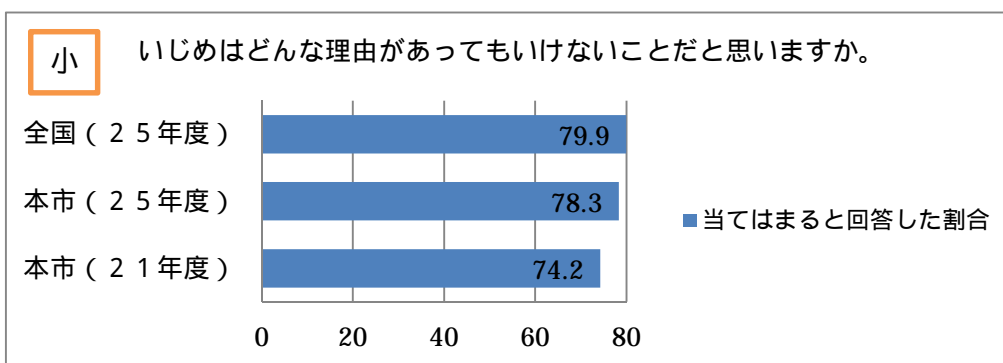
学校の規則 (中学校)



クロス集計

選択肢	生徒数割合 (%)	平均正答率 (%)			
		国語 A	国語 B	数学 A	数学 B
当てはまる	43.3	78.2	71.1	66.8	46.4
どちらかといえば当てはまる	46.0	76.7	69.3	64.0	43.4
どちらかといえば当てはまらない	8.4	68.2	57.6	52.6	31.6
当てはまらない	2.1	63.1	53.4	46.2	27.3

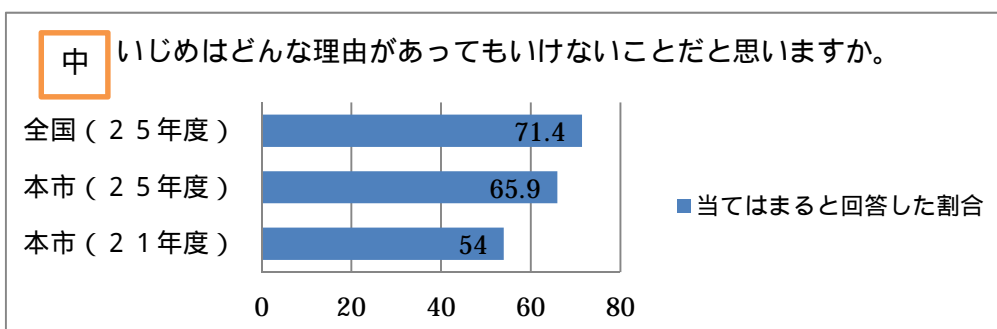
いじめについて<小学校>



クロス集計

選択肢	児童数割合 (%)	平均正答率 (%)			
		国語 A	国語 B	算数 A	算数 B
当てはまる	78.3	66.5	53.8	78.7	62.1
どちらかといえば当てはまる	17.4	65.6	50.5	78.1	60.9
どちらかといえば当てはまらない	3.1	60.0	44.2	72.7	52.9
当てはまらない	1.1	55.7	40.6	67.9	50.0

いじめについて<中学校>



クロス集計

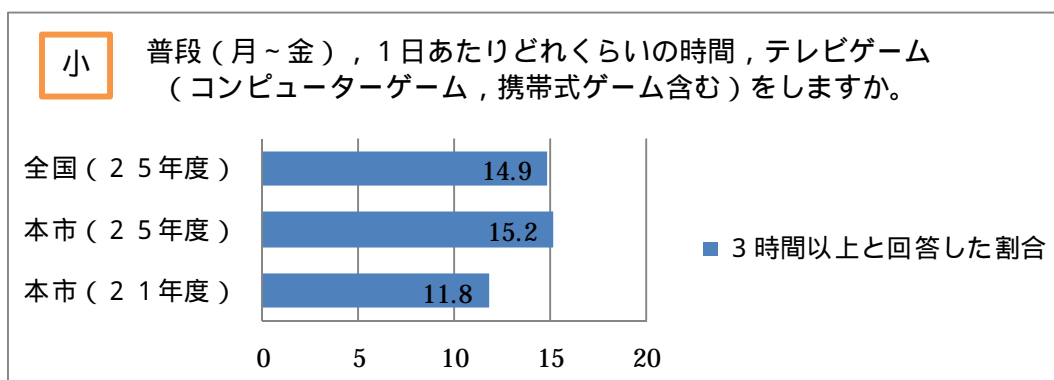
選択肢	生徒数割合 (%)	平均正答率 (%)			
		国語 A	国語 B	数学 A	数学 B
当てはまる	65.9	76.6	69.4	64.2	43.6
どちらかといえば当てはまる	26.1	76.7	68.7	64.3	44.0
どちらかといえば当てはまらない	5.6	74.1	64.3	61.1	40.8
当てはまらない	2.1	71.9	60.6	57.2	38.5

(4) ゲーム・携帯電話(スマートフォン)利用

平日にテレビゲーム(携帯ゲーム含む)を「3時間以上する」子どもは、平成21年度と比べて増加し、小学校で15.2%、中学校で16.7%もいます。「全く利用しない」、あるいは「利用時間が1時間より少ない」児童生徒と比べて、平均正答率に明確に差が出ています。

また、携帯電話(スマートフォン含む)の使い方については、「所持していない」、もしくは「家の人との約束を守って使用している」児童生徒ほど正答率が高い傾向がみられます。中でも小学校では、「家の人との約束をきちんと守っている(約束を守る)」児童と、「携帯電話やスマートフォンを持っていない(所持しない)」児童との正答率の差はあまり見られませんが、中学校では、「所持しない」生徒の方は、明らかに正答率が高いという結果が得られました。

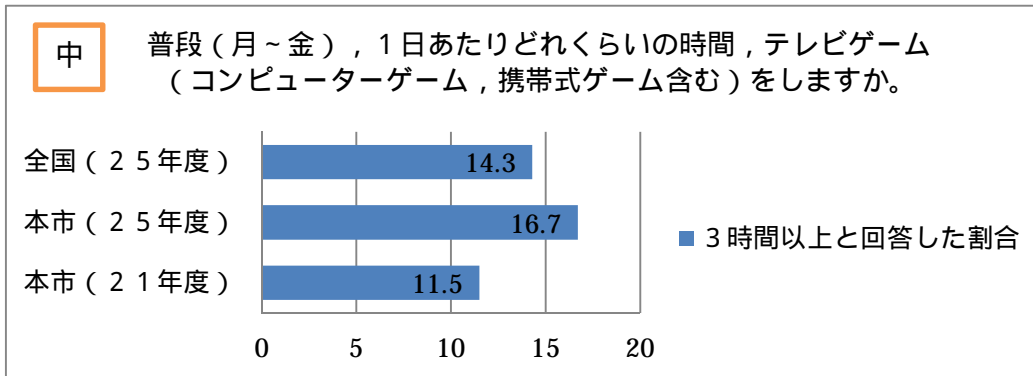
普段(月～金)のゲーム時間<小学校>



クロス集計

選択肢	児童数割合 (%)	平均正答率 (%)			
		国語A	国語B	算数A	算数B
4時間以上	7.9	55.7	39.1	68.7	49.0
3時間以上～4時間未満	7.3	60.2	45.9	72.7	53.8
2時間以上～3時間未満	12.7	62.6	48.5	75.8	57.4
1時間以上～2時間未満	24.9	65.9	52.9	78.8	62.3
1時間より少ない	32.1	69.2	57.1	80.9	65.0
全くしない	15.0	70.4	57.5	81.9	66.1

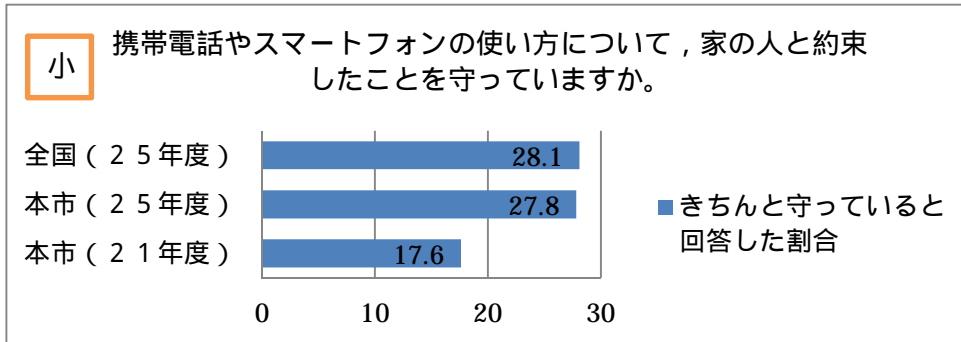
普段（月～金）のゲーム時間＜中学校＞



クロス集計

選択肢	生徒数割合 (%)	平均正答率 (%)			
		国語 A	国語 B	数学 A	数学 B
4時間以上	9.1	67.1	57.1	51.0	30.9
3時間以上～4時間未満	7.6	72.0	62.8	58.1	36.8
2時間以上～3時間未満	13.3	74.0	66.3	62.3	40.3
1時間以上～2時間未満	20.4	77.1	69.6	65.9	45.9
1時間より少ない	28.7	78.8	71.6	66.8	46.3
全くしない	20.6	79.4	72.8	66.6	46.7

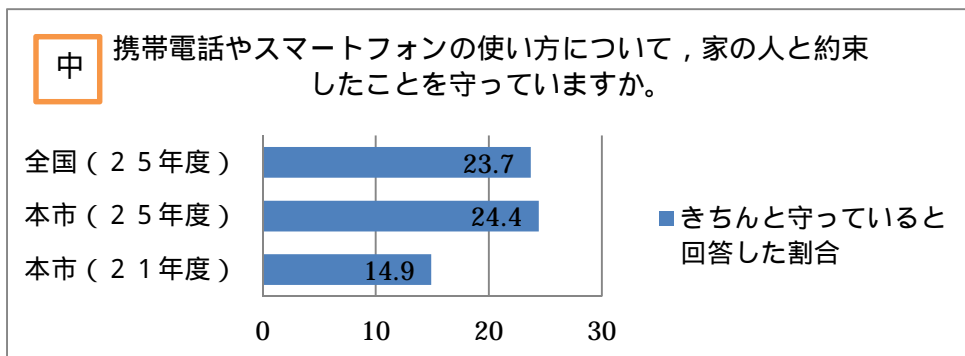
使い方について家族との約束事を守っているか<小学校>



クロス集計

選択肢	児童数割合 (%)	平均正答率 (%)			
		国語 A	国語 B	算数 A	算数 B
きちんと守っている	27.8	66.4	54.2	78.5	62.2
だいたい守っている	15.2	62.8	49.3	74.9	56.8
あまり守っていない	1.9	57.9	39.8	68.6	47.9
守っていない, 又は, 約束はない	4.8	61.9	47.6	73.8	56.1
携帯電話(スマートフォン)を持っていない	50.2	67.4	54.1	80.0	63.4

使い方について家族との約束事を守っているか<中学校>



クロス集計

選択肢	生徒数割合 (%)	平均正答率 (%)			
		国語 A	国語 B	数学 A	数学 B
きちんと守っている	24.4	76.1	68.4	63.8	42.6
だいたい守っている	30.8	75.8	68.5	63.2	42.4
あまり守っていない	6.3	74.7	65.5	61.6	39.6
守っていない, 又は, 約束はない	14.7	73.7	64.9	59.6	38.7
携帯電話(スマートフォン)を持っていない	23.3	79.7	72.9	68.3	49.8

4 京都市の学力向上の取組

(1) 京都市学習支援プログラム

京都市では、小中学校の接続を意識して、宿題を含む予習や復習、定着したかどうかをみる確認テストの実施など、子どもたちが自学自習の学習習慣（計画 事前学習 確認テスト 事後学習）を自ら身に付けるための取組として、「ジョイントプログラム」（小学校で平成20年度～）、「学習確認プログラム」（中学校で平成18年度～）を実施しています。確認テストでは、年間を通じて、児童生徒が学習につまずいたり、定着に課題がみられる単元・領域が、継続的にデータとして蓄積されていきますので、全国調査の結果と合わせて、教職員間で情報を共有し授業改善に生かしています。

名称（開始年度）	学年	実施回数（合計）		実施教科等
プレジョイントプログラム （平成23年度～）	小3	1	2	国語，社会，算数，理科
	小4	1		
ジョイントプログラム （平成20年度～）	小5	2	5	国語，社会，算数，理科 （*5回中3回は国・算で実施 *小6の最終回は中学入学直後に確認テスト実施）
	小6	3		
学習確認プログラム （平成18年度～）	中1	1	6	国語，社会，数学，理科，英語
	中2	3		
	中3	2		

(2) 保護者・地域との連携による家庭学習への支援

学校運営協議会（平成25年10月現在197校に設置）をはじめ、地域の方々・保護者・学生ボランティアの参画のもと、「土曜学習」（平成23年度から全小中学校で実施）や「放課後まなび教室」（平成21年度から全小学校区で実施）などの取組により家庭学習や自学自習の習慣の育成に努めています。

(3) 小中一貫による学力向上・キャリア発達支援

全中学校ブロックで「小中一貫教育」を進めており、小学校・中学校の教職員が、子どもたちの義務教育9年間の育ちを組織的に把握し、体系的な教育活動を進めています。また、子どもたちが社会の中で自分らしい生き方を実現していく過程（「キャリア発達」という）を支援していくことも大切にしています。特に、中学生は自らの進路を決定するにあたり、重要な場面に直面することが多くあることから、生徒一人一人のキャリア発達をみすえた進路指導の充実に努めています。

その他にも、読書ノートを活用した「本」大好きな子どもを育成する取組や規範意識を育むための取組など、一つ一つの地道な取組が有機的につながり、京都市の児童生徒の学力が少しずつ着実に上昇している一つの要因となっているといえます。

教育委員会では、冊子「自学自習のすすめ」において、学力向上を図るうえで大切な家庭学習のヒントをわかりやすくまとめ、児童生徒の小中学校入学時に配布しています。子どもたちと一緒に、是非ご一読ください。

自学自習のすすめ



資料編 ~つかめ! たしかめ! ノートづくりのコツ~

ノートは学校の授業を写すだけのものではありません。それぞれの教科の先生の指示もあってしょうが、その上で自分なりの工夫をしましょう。「世界でたった一つだけのノート」のために...

Aさんの工夫
ノートの左ページに学校での学習の軌跡を写し、右ページに自分でまとめたことや調べたことを書き込んで整理しています。自分で学習した事項を整理することが、高い理解につながります。

Bさんの工夫
ノートを2冊用意して、1冊は学校での学習に、もう1冊は「自分製版」用のノートにしてまとめたページだけを書き込みます。授業のあった日にこの作業をするので、それは立派な復習になります。特別なことを言えば、学校で書き込んだノートをもう1冊のノートに、複製しながらいないに写すことから始めてもいいのです。

Cさんの工夫
授業のイラストを複製して、キョウクターに抜き出しを作って授業内容を整理したり関連したことを絵で表したりして、読んでいるだけでも楽しいノートづくりをします。シールなども上手に使う工夫もいでしょう。

Dさんの工夫
学校での学習の軌跡を写すだけでなく、そこにどんどんとメモを書き込んでいます。最初は大変ですが、慣れば思いがけずに出来ます。自分だけの疑問を解決しておいて、メモを取る時間の短縮はかかっていきます。

Eさんの工夫
学習した事項がある程度まとまると、自分でノートに「まとめテスト」を作ります。それを定期テスト前に解いています。「自分が先生になったつもりで問題を作る」。つまり、しっかり定着させたいと思う気持ちで作ると、自習と大切なところが浮かびあがってきます。

注意したいこと

- 色ペンを使うなら一色も、あらかじめ決めておきましょう。例えば重要事項は、筆中の色は黄色で読むなど決まれば多いのはあってもいいとは思いません。
- 文字はていねいに書くようにしましょう。上手でなくてもいいけれど、ノートを書くということとはその自律、文字の練習なのです。
- 毎日書き込んでおきましょう。文字が慣れてきたら、それだけで楽しくなります。お気に入りのペンで書くのもいいです。「後で書き込む」一それこそが学習の目的のひとつです。お学習プリントをノートに貼る時は、色紙を貼る感覚がいいが、きれいに貼るコツです。プリントの隅にのりを少しだけ付けて貼り、裏で軽くかく、見やすいノートになるようにしましょう。

リーフレット「生徒一人一人のキャリア発達をみずえた進路指導のために」 (中学校教職員・保護者向け)

生徒一人一人のキャリア発達をみずえた進路指導のために

キャリア教育 (社会的自立・職業的自立に向けて必要な意欲・態度や能力の育成)
進路指導 (中学校・高等学校)
高等学校 (職業的自立)

中学生が自らのキャリア形成に向けて、目的意識をもって希望する高校を主体的に選択できるよう、京都市・乙訓地域公立高校の新しい教育制度が平成26年度から始まります。中学校においては、これを機に、これまでの進路指導を見つめ直し、一層充実させることが求められています。このリーフレットは、全ての教職員が、「キャリア発達の支援を踏まえた進路指導」を進めるにあたって、常に意識して取り組むべきことをまとめたものです。

京都市教育委員会

生徒の主体的な進路選択への支援

教職員のチームワークでキャリア発達支援を!

生徒の主体的な進路選択へ

人とともに生きていく力 (人間性) 育むこと
自分を知り、育むこと (自己理解)

育てたい4つの力
職業・社会生活 につく力 (キャリア力)
学ぶ力 (学習力)

高学年を支援するの視、主体的な進路選択。そのためには、個別のキャリア発達支援が不可欠です。一人一人のキャリア発達支援が不可欠です。学校内外の連携が不可欠です。とわかれ、高学年支援は、キャリア発達支援の観点から進路指導を支援する高学年として、自分たちの進路選択に向けて主体的な進路選択を支援することを目指します。高学年支援は、高学年支援の観点から進路指導を支援することを目指します。高学年支援は、高学年支援の観点から進路指導を支援することを目指します。

高学年支援の観点から進路指導を支援することを目指します。高学年支援は、高学年支援の観点から進路指導を支援することを目指します。高学年支援は、高学年支援の観点から進路指導を支援することを目指します。

5 保護者・地域の皆様へ

全国調査は、平成19年度から毎年実施（平成22、24年度は抽出調査、23年度は東日本大震災のため中止）され、国語と算数・数学の2教科（24年度は理科も実施）の学力と併せて、家庭での過ごし方や学習時間などの調査も行われてきました。またこの間、京都市独自に、小学校では「ジョイントプログラム」、中学校で「学習確認プログラム」を実施し、児童生徒の学習習慣の確立と学力の定着を図るための支援も行ってきました。

児童生徒は、これまでの自らの学習の成果をチェックする機会として各テストに取り組み、間違った分野を繰り返し学習したり、次の目標を決め決意を新たにする契機として活用してきました。各学校では、教職員間で、学級や学年ごと、そして学校全体として課題をまとめ、保護者・地域とも情報を共有し指導方法の工夫や授業改善に生かしてきました。

言うまでもなく、学力は、学校と家庭・地域での地道な取組を重ねていくことで向上していくもので、日々の生活習慣・学習習慣を身に付けることが基本です。今回の全国調査で出た数値は、学力の全てを表すものではありませんが、子どもが日々の授業や家庭での学習を通して、知識・技能がきちんと身に付いているか、習得した知識を活用できるか等の定着度を表す重要な指標です。

平成25年度の結果は、総合的にみると、これまでの調査と比較して着実に伸びてきています。子どもたちの学習に向かう意識や態度も向上し、最後まであきらめず、粘り強く取り組んだ結果だといえます。併せて、学力と大きく相関関係がある「家庭学習の時間」、「規範意識・自尊感情の育成」、「携帯電話・ゲームの利用」などの状況にも改善が見られます。各家庭での子どもに対する積極的な関わりや学校の取組に対する理解、ご協力の結果が表れているものと考えられます。

子どもたちの力の全てを数値で測れるわけではなく、「学力向上」だけが教育の目標ではありませんが、各家庭、学校運営協議会やPTAをはじめ、「子どもを共に育む京都市民憲章」の具体的実践に取り組んでいただいている多くの方々のご協力のもとで、市民ぐるみ・地域ぐるみで子どもたちの学習環境を整え、「生きる力」の礎となる「学ぶ喜び」や「生活の知恵」を授けていただいていることが、今回の結果につながったのだと確信しています。

この度お示しした結果は、あくまで全国や京都市全体の傾向です。これを受けて、各学校や各家庭・地域において、課題を共有し、それぞれの子どもの状況に即した取組や指導を共に考え、行動を共有していくことが、子どもの力を伸ばしていくための大きなポイントとなってきます。子どもたちが夢と希望を持って未来を切り拓いていけるよう、豊かな学びと育ちのために、市民の皆様のさらなるご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

（本件に関する問い合わせ）

京都市教育委員会学校指導課

電話（075）222 - 3801